



不確実で予測困難な時代に 未来を切り拓く新たな価値を創造する 「総合知で社会変革を牽引する大学」



いしはら たつろう
石橋達朗総長
1975年九州大学医学部卒業。81年同大学大学院医学研究科博士課程修了。九州大学大学院医学研究院眼科学分野教授、副学長、九州大学病院長などを経て2020年より現職。(2026年9月現在)

SUMMARY

九州大学は、1911年の創立以来、初代総長・山川健次郎氏の訓示「己が専門の学問の繆を極め、合せて他の凡てのことに一応の知識を有して居らんで、即ち修養が広くなければ完全な士と云うべからず」に基づき、専門知の深化とともに、幅広い学問領域の学修を重視する精神を大切にしてきました。国内最大規模を誇る伊都キャンパスを中心に、複数分野の「知」の融合を一層加速し、社会変革を目指した教育・研究を展開しています。国立大学最多の学部数を有する本学で、それぞれの専門知を身に付けるとともに、アントレプレナーシップ教育⁽¹⁾や課題解決型教育を通じて、多様な知と触れ合いながら、共に社会を、そして未来を変革していきましょう。

01 複眼的な「総合知」で教育・研究と未来を拓く社会変革を推進

九州大学は195年にわたり育まれた叡智を礎に、高い水準の教育と最先端の研究を進めてきました。2021年には世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる大学として「指定国立大学法人」の指定を受け、同時に「Kyushu University Vision 2030」を策定し、目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げました。「総合知」とは、九州大学が持つ人文社会科学系から自然科学系、さらにはデザイン系の「知」も組み合わせ、多様な視点で課題の解決に導く新たな知見や斬新な考え方を意味します。この複眼的な「総合知」により、教育・研究はもとより、社会変革にも貢献しています。そして、このビジョン実現に向けた3つの基盤組織として、分野横断で社会課題解決を目指す「未来社会デザイン統括本部」、多様なデータ活用により新たな価値創出を推進する「データ駆動イノベーション推進本部」、産学官金連携で研究成果の社会実装を推進する「オープンイノベーションプラットフォーム（OIP）」を設立しました。OIPは2024年11月に外部法人化し、現在は「九大OIP株式会社」として、大学と産業界の橋渡しを担い、共同研究や大学発スタートアップの創出を推進しています。また、九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）を中心に、アントレプレナーシップ教育を通じて学生の挑戦を後押しし、新たな価値を創造する人材の育成に注力しています。多様な「知」を持った学生同士の協働や、複雑な社会課題への挑戦を後押しし、予測困難な現代社会の中で活躍する人材を社会に輩出しています。

02 高大連携と文理融合で「価値創造人材」を育成

れた若手研究者の育成を重要な使命と位置付ける九州大学は、2023年4月に設置した「未来人材育成機構」の主導により、高大接続から博士課程修了までの一体的な改革を推進しています。高大連携事業としては、次世代の傑出した科学技術人材を育成する「九州大学未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）」や女子高校生対象の理系インターンシップ「九州大学QURIESプログラム」などに取り組みんでいます。これらをはじめとする高大連携事業を修了し、高い研究意欲と能力をもって入学してきた学生に、学士から博士課程まで一貫して支援する「次世代博士人材育成コース」を2027年4月に設置予定です。このコースの学生を選抜するため、「次世代研究者発掘入試」を2027年度入学者選抜（26年度実施）から工学部（一部学科）と農学部で実施する予定です。学部入学後に履修する基幹教育は「なぜ？」と問い続ける姿勢を軸に、創造的・批判的に物事を捉える力を育て、未知の課題にも挑戦できる思考の幹をつくる学びを通して、柔軟な洞察力和行動力を備えたアクティブ・ラーナーへと成長できる点が大きな魅力です。

また、価値創造人材の育成として、社会の複雑な課題を解決できる能力を養うため、文理融合型教育にも取り組んでいます。その一例として、マス・フォア・イノベーション連係学府では、数学を基盤として異分野連携を進め、イノベーションを創出する数学博士人材を育成しています。また、人文情報連係学府では、「人文学的視点」とデータ分析・人工知能などの情報

大学HP



学を活用できる知見の双方を備えた分野横断的な高度専門人材の育成を目指しています。

他にも、文理の壁を越えて数理・データサイエンス・AIを応用できる人材の育成に向け、学部生を対象とし

た「情報系副専攻プログラム」を実施しています。さらに、次世代AI人材育成プログラム（BOOST）により、

高度な専門性に加え、AI技術を他分野へ応用できる能力を有した博士人材の育成に取り組んでいます。

PICK UP 対話から新たな学びを生み出す「Sky Cute.Commons(きゅうとコモンズ)」

伊都キャンパスにある中央図書館は、落ち着いた学習・研究に打ち込める1・2階、エントランスやラウンジを備え多くの利用者を迎える3階、アクティブラーニングスペースを設けた活気あふれる4階で構成されています。その4階にあるのが、図書館の中にありながら、活発に議論しながら学習できるスペース「Sky Cute.Commons(きゅうとコモンズ)」です。可動式のイスや書き込みができる机など、学習活動を支える設備が充実し、学生の主体的な学びを創出しています。1000㎡におよぶ広いスペースには、講習会スペース、グループ学習室、その他さまざまなエリアがあります。



03 知識基盤研究から技術統合研究まで次代を先導する課題解決に挑む

幅広い研究分野の中でも特に強み・特色を生かし、社会課題の中で先導して取り組むべきエントリポイントとして、九州大学は「脱炭素」「医療・健康」「環境・食料」の3つを設定しています。例えば「脱炭素」では、サステナブル水素研究所（水素の製造から利用まで一体的に研究する国際的拠点）の設置や、天然水素の生成ポテンシャルに着目した水素の生産・供給・利用技術条件の整理等により、カーボンニュートラル社会実現に向けた取組を進めています。

幅

「医療・健康」では、脳深部を含む神経回路を広範囲に二次元的かつ高解像度で解析し、神経回路の構築原理の一端を解明。脳回路研究分野に世界的潮流をもたらしました。「環境・食料」では、生産性向上と環境保全を両立させる新たな食料生産モデル「ONE・アグリシステム」を提言し、社会実装に取り組んでいます。その他、注力している領域が「半導体」です。世界的半導体メーカーTSMCの熊本進出に伴い、九州全域で新生シリコンアイランド九州実現への気運が高まっています。九州大学はTSMCと連携授業等で協力関係を強化しつつ、「全九州・沖縄半導体人材創出エコシステム拠点形成」事業により、設計から試作まで一貫して学べる教育体制で、九州の半導体産業を支える未来のリーダー育成に取り組んでいます。さらに「九州サイエンスパーク形成先導拠点」を設置し、地域経済の持続的成長に貢献しつつ、次世代半導体技術の創成を進めています。このように、多様な領域で知識基盤研究から社会実装を目指す技術統合研究まで展開できるのが、九州大学の強みです。

04 27年度、新入試始動！未来を拓く九州大学とともに学ぼう

国

際社会をリードし、新たな価値創造を担うグローバル人材の育成に力を多れる九州大学では、その基盤となる語学力、多様な文化や価値観を理解する感性、国際的なコミュニケーション能力を養うため、学部から博士課程にわたる一貫した国際教育プログラムを展開しています。主要大学への交換留学に加え、海外大学と連携した学位取得が可能なダブル・ディグリー/ジョイント・ディグリープログラムを実施するとともに、戦略的パートナー校や国際大学間ネットワーク、欧州をはじめとする海外オフィスを活用し、多様な国際交流・学修機会を提供しています。さらに、国際教育ナビゲーションセンターによる留学情報支援や「グローバルプロフェッショナル認定制度」を通じて、学生一人ひとりのキャリア形成や将来の進路選択を後押ししています。

九州大学は、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めています。そうした人材を育成するための環境や、九州大学独自の経済支援制度、多彩な教育プログラムを用意しています。

2027年度からは、我が国の科学技術イノベーションの創出を担う博士人材の育成を目指し、高校生段階から博士課程修了までの一貫した学びと手厚いサポート、成長の可能性を広げる柔軟なカリキュラムを取り入れた「次世代研究者発掘入試」を実施します。

未知の課題等に取り組むことができる人材を目指し、九州大学で一緒に学びを深めましょう。

九州大学

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744
学務部入試課 TEL 092-802-2006
https://www.kyushu-u.ac.jp/

(1) アントレプレナーシップ教育

「九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）」が中心となって提供する、学生同士のディスカッションや各界で活躍するゲストの招聘、デザイン思考演習等のワクワクする体験を通して、「新しいことを仕掛ける人」「社会を変えようとする人」を育成することを目的とした教育プログラム。

(2) 九州大学未来創成科学者育成プロジェクト(QFC-SP)

将来グローバルに活躍しうる次世代の傑出した科学技術人材を育成するため、高度で実践的な教育を通じて課題解決能力をさらに伸ばしていくことを目的とする高校生対象の教育プロジェクト。